

18歳になったら選挙に行こう!

日本で選挙が始まったのは1890（明治23）年ですが、当時は男子にしか選挙権はありませんでした。第二次世界大戦後になって20歳以上の男女が選挙権を得て投票できるようになり、2015年の法律改正でその年齢が18歳以上に引き下げられました。今後、新たに18歳以上20歳未満の方が選挙に参加できることとなります。あなたの一票を大切にしてください。

■ 普通選挙が実現するまでの道のり

年号	選挙資格	有権者の人口比
明治23年（1890年）	直接国税15円以上納めている25歳以上の男子	1.1%
明治35年（1902年）	直接国税10円以上納めている25歳以上の男子	2.2%
大正9年（1920年）	直接国税3円以上納めている25歳以上の男子	5.5%
昭和3年（1928年）	25歳以上の男子（納税の要件がなくなる）	20.0%
昭和21年（1946年）	20歳以上の男女	48.7%
平成27年（2015年）	18歳以上の男女	84.4%

■ なぜ選挙権年齢が18歳に引き下げられたのか

選挙権年齢が引き下げられたのは、将来を担う若い世代に選挙や政治に対する関心を高めてもらうこと、若い世代の意見をもっと政治に取り入れていくことがねらいです。

ただでさえ少子化で若い世代は少ないなかで、若い世代の意見が政治に反映されないために政治離れが進んで投票率は低下、結果としてさらに若い世代の意見を反映した政策は減少する。こんな悪循環はどこかで断ち切らなければなりません。若い世代の投票率を高めて若い世代に配慮した政策を増やし、それによって政治への関心を高めていくという好循環に転換していく必要があります。

18歳といえば多くの方は高校3年生。選挙や政治を難しく考える必要はありません。まずは、自分のまちや学校のことなど身の回りを観察し、どんな問題があるか考えてみましょう。選挙や政治への関心は、こうした身近な問題を考えることから生まれてきます。

